

令和5年度 大阪府立茨木支援学校 第2回学校運営協議会【議事録】

令和5年11月27日(月)

茨木支援学校会議室

時間：10時～12時

○参加者

協議会議員：6名

茨木支援学校：校長 准校長 教頭2名 首席4名 部主事3名

指導教諭 教務部長 以上19名

○はじめに＜事務局からの連絡＞

教頭（司会）：本日はご多用の中ありがとうございます。全国的にインフルエンザが流行しており、本校でも先週までは罹患者が増加傾向にあったが、週が明け、現時点で学級閉鎖や感染の広がりは見られない。先日银杏祭が無事終わり、保護者にも児童生徒の姿を見ていただくことができた。引き続き教育活動を続けていきたいと考えているので、ご助言をいただきたい。

○校長・准校長挨拶

校長：本日はお忙しいところありがとうございます。新型コロナについては、現在本校での罹患者はほぼ見られない。一方、インフルエンザが流行しており、気を引き締めているところ。学校行事はコロナ禍前に近い形態で実施しており、コロナ禍で得たことを活かしながら、前の形にさらに近づけていきたい。本日は授業アンケートの結果も出ている。学校教育自己診断と併せてご意見をいただければと思う。

准校長：着任して8ヶ月、本校の歴史を知り、長所も課題も見えてきたところ。本日は様々にご助言をいただければと思う。12月には、茨木市に今年新しく開設された複合施設「おにクル」で催されるダイバーシティアート展に本校も参加する。地域との連携、かわりを促進していきたい。

1. 令和5年度学校経営計画進捗状況について

校長：ほぼすべての項目がスムーズに進捗している。前回の協議会でも言及したが、キャリアアップランニングマトリックスに紐づいた中期的目標の進捗については准校長より後ほど説明したい。今年度はコロナ禍が明け、3年間様々に対応してきたことから元に戻すことの難しさも感じつつ、「コロナ禍前に戻そう」をスローガンに取り組んでいる。学校経営計画3-(2)地域との交流・共同学習の推進については、福井地区との交流、図書室の人材バンクなど、今年度は復活し実施できている。以前の教育活動に戻せるようになってきた、注力してきたところがスムーズにいていると感じている。

准校長：キャリアプランニングマトリックスは前年度から全校教育課程改善会議で検討してきた。今年度はマトリックスのよりよい活用をめざしてPTを立ち上げた。メンバーは首席1名、各学部1名（高等部は課程ごとに1名）で構成。今年度方向性を決め、次年度試行しながらより活用できる形にしていく。担当首席からも説明する。

首席：キャリアプランニングマトリックスは、ここ数年検討はしてきたが、本校の幅広い児童生徒の実態の中で、どの子どもについても使用しやすいものを作るのは難しかった。再整理が必要で、個別の教育支援計画と結びつけながら考えていきたい。先生方の意見を吸い上げながら、来年度の試行完成に向けて取り組む。

准校長：キャリアプランニングマトリックス以外の項目では、4-（4）職業基礎コースの拡充について。現状、高等部生活課程では毎週水曜日に職業に係る授業を実施している。内容としては、情報、名刺作成、会社検索、経路検索など。ジョブトレーニングの授業では清掃などにも取り組んでいる。

会長：コロナ禍前の活動をめざすのは大切。コロナ禍を経て、オンラインの発展など社会変化が起こったがそれをプラスの方向に変える、活かせる面はあるのか。コロナ禍中は必要に迫られての先生方個々の努力もあったかと思う。GIGAスクールを根づかせることはできるか。校長先生はじめ、学校全体で考えてほしい。キャリアプランニングマトリックスについて。個別の教育支援計画、個別の指導計画との整合性、相関図を先生方はどれくらい理解されているのか。教育支援計画、指導計画など既存のツールですら十分に生かされているのかと思う。そこに新しいキャリアプランニングマトリックスが入る。先生方への周知はどうなっているのか。期待もあり、不安もある。

校長：全部をコロナ禍前に戻すのではなく、コロナの経験によって得たこと、スキルは継続してやっている。学校行事での保護者の来校・参観中止などは戻っていった。キャリアプランニングマトリックスについては、発達が個々のペースの子どもの教育を進めていくための「ものさし」になるようなものと考えている。教員が授業を進める上では、シラバスもある。子どもの発達、目標は様々。それぞれの子どもの発達の段階を知り、教員が次に何をすればよいか、目標は何かと考えられるものになれば。

准校長：教育支援計画、指導計画、マトリックス…と言葉ばかりがたくさん溢れてくる印象はあるが、マトリックスは既にやっていること、やっていくことの目標を理解するための指標と考えている。その理解を進めたい。紙やすることばかりが増えるというイメージを持たれないようにはしたい。

会長：私自身が教育現場で働いていた個別の教育支援計画、指導計画の導入時、その違いがわからず教員にも浸透しにくかった。我流を通そうとする方も多かった。年配、ベテランほどそう感じた。新しい概念を、子どものために一緒になって、その価値を理解してよりよい学校にしてほしい。

校長：新しい取り組みほどトップダウンで実施するのは難しいと考えている。今年度、研究部が主体となり観点別評価について積極的に進めている。やっていかないといけない

ことではあるが「やらされている」では難しい。ボトムアップの仕組みづくりを進めていく。

委員：4-(4)にタイプミス。「破棄」→「発揮」。破棄されては困ります。

委員：キャリアプランニングマトリックスについて、保護者としては、先生方が我が子に対して何のためにこれをしているのか、どの先生に尋ねても同じように説明してくれたら安心する。先生個々の人柄や考えによらず、これに則ってこうしているという基準のようなものがあれば安心だし、それを理解した上で保護者は要望を伝えられる。

2. 第1回 授業アンケート 授業評価について

教頭：第1回目に提示できなかったが、保護者へのアンケートの様式を資料としてだしている。(記名か無記名化ということが第一回の議案にあがったが、記名)本校では、府からの様式のアンケート項目を使用している。実施予定は、資料の通り。感染対策を講じながら参観週間を設定し、行っている。回収枚数を回収数としている(家庭数ではない)。裏面は、各学部の評価となっている。概ね、肯定的な回答が多かった(自由記述も含め)。経営計画でもあったが、授業実践等を研究部、自立活動部と連携しながら進めている。「言葉かけやかかわりについて」のところで、教員の丁寧な指導へご意見をいただいている。27日は体罰根絶の日とし、教員とも丁寧な指導というところを共有して意識高めて取り組んでいる。

委員：高3の回収率が高2の半分となっているがどうなっている？

教頭：高3は、授業よりも進路に対することに目を向けていることが多い。先週も進路座談会があったが、出席率がとても高かった。

委員：授業アンケートは、参観に来られた方が出している？

教頭：全保護者に参観前に配っている。参観に来てアンケートを出していない方もおられる。お一人で複数枚提出されてる保護者もいたり、全授業で1枚の方もいたりする。なかなか正確なものではない。

委員：私は、一人で10枚は出したと思う。分析結果のパーセントはあげていると思う。どの教員にも意見が返ればよいと思う。

校長：アンケートを集めるのが本当に難しい。元々の対象は中・高。茨木支援学校では、今の形となっている。今は、アンケートを置いているが、昔は個人に渡して、絶対書いてもらっていた。教員にどのような形でもみんなに返ればと思う。

委員：コメント等、授業改善に向けて、保護者の意見を共有して考えていければよいと思う。子どもに返していけるように、保護者と共有してほしい。このご意見を改善するのではなく、このご意見をもとにどう改善していくのかを考えてほしい。「自分を知る」ことをみんなに活かしていければよいと思う。

会長：我が子を通して授業を見るのが多い授業アンケートをどれだけとっても、自分ではでき

ていると思ったら、改善していかない。自分事としてみれたら、改善していけると思う。

3. 学校教育自己診断アンケートについて

首席：A3の中の資料が実際の質問事項となっている。昨年度と大きく変更なく、実施。

今後、集計をし、第3回学校運営協議会で報告できると思う。教職員・保護者においては、Googleフォームでの実施。対応していない方については紙での実施。集計については、部主事や各部署と連携して行っていく。

委員：アンケートのGoogleフォームの質問を数名の保護者から受けた。ログイン等わからない人もいる。スマホを使用しているが、扱いが難しい人も多くて、回収率につながっているのでは？

首席：懸念していた点でもある。紙での併用は必要だと思う。その声かけが不十分だったかと思う。

会長：スマホをもっているが、しない人も多いと思う。学校側からの粘り強い説明が必要かと思う。使い方を作成して、丁寧にしていく必要があるかと思う。ずっと紙での提出の方もいるかと思う。学校として、Googleフォームでしていきたいと思うのであれば、学校が保護者を支えてあげるようにしてほしい。切り捨てるようなことはないようにしてほしい。

校長：今回は、自己診断でGoogleフォームを使用したけど、他のものでも使用している。下準備が下手というご意見はあるかと思う。さくら連絡網や防災のアンケートなどでも使っている。昨年度の回収率と比べて…は第3回に報告できるかと思う。

4. 令和6年度 使用教科書について

教務部長：(選定一覧表の説明)

例年と異なるところはなく、各学部、学年のどのグループで使用する教科書なのかを記載している。児童生徒が興味をもって授業に取り組めるように実態に応じて選定をしている。継続本については、年度をまたいで使用するもの。年度替わりの際、紛失することがないように学校で管理をする。この選定一覧表を、現在府教委に提出中。OKが出たら採択されるという流れになっている。

委員：小学部の選定教科書について。生活年齢についてどのように考えられているのか。児童の実態に即して、先生方が選定されていることを尊重した上で、小4～6年生の算数で選定している絵本「おいしい、おいしい1・2・3」。4年生～6年生合同で授業を展開されていると思われる。この絵本を使用し、生活年齢に即した形で授業を作る難しさがあると思われるが、そういった面も踏まえて工夫して授業をしていって

欲しい。

会長：新入生の選定について、実態が分からない中でどのような考慮がされているのか？
児童生徒の実態を踏まえた上で選定することは保護者に求められていると思われる。
保護者に「なぜ、この教科書なのか？」と聞かれた時には、全ての先生方が選定理由
を伝えられるようであるべき。先生方にはそういった意識を持って欲しい。

校長：新入生一人ひとりの実態を踏まえた上で選定することは、難しい現状がある。スケジ
ュール面の難しさだけでなく、教科書採択そのものの難しさはある。児童生徒の実態
を踏まえて、真摯に向き合って選定しているが、検定本以外の選択肢が狭くなってい
る中で、使いたいが使えないという制約も出てきている。

5. 意見書について

ご意見はなし。

6. その他

第3回学校運営協議会は、令和6年2月の開催を予定している。